

令和 4 年度小規模総合学科による地域と連携・協働した高校魅力化推進事業に係る学校視察報告

日時：令和 5 年 2 月 9 日（木）

場所：山口県立萩高等学校、萩市総合政策部産業戦略室

山口県立萩高等学校

対応：教頭 南 伸 一 様、教諭 福 田 尊 文 様

1 学校概要

萩明倫館の流れを汲む萩高校は、創立 152 年の歴史と伝統を持ち、普通科と探究科（理数科に代わる学科として平成 30 年に開設）を設置。世界遺産である萩城下町の中に校舎があり、萩の長く深い歴史を生かした探究学習である「萩グローバルラーニング（HGL）」を展開し、地域とともに学校づくりを進める「コミュニティ・スクール」の活動に力を入れている。また、探究学習にも力を入れており、特に探究科の取り組みにおいて、山口県の探究学習成果発表会で優秀な成績を収めて県代表に選出されるなど、その成果は広く認められるものとなっている。



2 総合的な探究の時間の実施状況について

令和 4 年度入学生から、1～3 年次各 1 単位ずつ実施。1 年次では探究の基礎を学ぶことを主眼に、地域の魅力発見のために地元企業や市役所などに協力を仰ぎながらフィールドワークを実施し、2 年次からの課題設定に向けた取り組みをしている。普通科 2 年次では、「萩グローバルラーニング（HGL）」と題した地域課題解決に向けた探究活動を実施している。探究科 2 年次では、HGL と同じように地域課題を設定するが、大学教授による定期的な指導や、担当教員の教科特性を生かした担当割りなどによって、より高度な仮説の検証と報告になるような工夫をして実施している。3 年次では、「Look Up」と題し、進路活動に生かせるよう、2 年次までの探究活動を生徒自身の言葉で語るためのまとめを行っている。

これら 3 年間の探究活動には、萩市教育委員会所属の地域連携サポーターが深く関わっており、計画の立案や、生徒と関係機関との橋渡しなど、重要な役割を果たしている。地域連携サポーターの協力を受けながら、系統的・計画的な探究学習の推進を目指している。

3 探究学習と進路指導の関連について

前述のとおり、3 年次の総合的な探究の時間においては、生徒が行った探究活動について生徒自身の言葉で発表できるような指導を中心に行っており、その結果、国公立大学合格者の半数以上が、総合型選抜で受験しているという現状がある。そのような指導の中では、生徒の希望進路と萩の課題を結びつけられるようにすることで、地域への愛着を深めていくことも目的としている。

4 探究学習と学校魅力化について

歴史や伝統に囲まれた学校特性と県内に3校しかない探究科で行われる探究学習を強みとし、地域の魅力発見ができることや、大学との充実した連携事業などで魅力化を図っている。なお、少子化の影響や市外の高校へ進学する生徒も少なからずいることなどから、多くの中学生を取り込むための魅力発信が今後も課題となっていくようである。

5 萩市との連携について

萩市教育委員会所属の地域おこし協力隊のメンバーに、「地域連携サポーター」として探究学習の運営に関わってもらっている。総合的な探究の時間の年間計画を立案したり、生徒と地元企業・関係機関を結びつけたりしているほか、生徒に萩の歴史や文化などの講義をすることもあり、探究学習の中心的役割を担っている。

萩市主催の萩探究部「はぎたん」では、参加を希望する生徒が課外活動として探究学習を行っている。その成果発表会に合格内定している中学生を招待することで、高校での探究活動にスムーズに移行できるような工夫をしている。

萩市総合政策部産業戦略室

対応：室長 小 野 真 文 様

1 萩探究部「はぎたん」について

「熱中小学校（全国各地で行われている大人の社会塾）」萩明倫館の校長を務める慶應義塾大学教授の鈴木寛氏に、高校魅力化のための相談を持ちかけたことがきっかけとなり、高校生の探究する場を設けるために、令和2年10月にスタートした。目的は、萩ならではの学習支援としての探究力向上と、これまで高校では手薄だった地域と連携した取り組みの推進である。



2 萩探究部「はぎたん」の運営・指導について（高校との連携）

鈴木寛氏が主宰する「すずかんゼミ」の学生7～9名が、毎月萩を訪れ（令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で3回の実施にとどまったが、令和4年度は毎月実施できている）、明倫館跡地にある明倫小学校の旧校舎を使い、マンツーマンで高校生の探究活動を支援している。高校生は、学生の助けを借りながら自身の興味関心に応じて課題設定をし、探究を進めていく。毎月の対面授業の他、オンラインでの授業も適宜行われている。萩市では、「はぎたん」に500万円ほどの予算立てがなされており、学生の交通費や宿泊費も含めた運営に係る費用をそこから捻出している。

萩市では、高校魅力化を目的に地域おこし協力隊を募集し、複数応募があった中から2名が選出され、令和3年度より「はぎたん」の運営にも従事している。市教委主催の高校魅力化会議への出席や地域連携サポーターとして萩高校の総合的な探究の時間の運営にも携わっており、高校と行政をつなぐ役割を担うその存在は、萩の探究学習に欠かせないものとなっている。

現在は高校生のみを対象とし、参加者が萩高校の生徒に偏っている実情があるので、市内3校の高校生を幅広く取り込むことや、中学生との連携・情報発信が今後の課題となっている。